

都 鳥



第5号

2009年5月版

題字「都鳥」は、伊藤幸子の書

文化祭再現のすすめ

....「都鳥」からのメッセージ

早いもので、「都鳥」もこの号で5冊目になります。同期生の間の消息の交換手段として発足したこの会誌は、幸い皆様のご賛同とご協力を得て、どうやら無事にその役割を果たしてきました。卒業以来動静の知れなかった友達の消息に触れる事は、共に暮らした日々が、その折々の情景や雰囲気をもとって生き生きと現在に蘇えることでした。しかも、現在の皆さんの様々な関心事や多彩な趣味を知る事で、自分の世界もまた大きく広がり、豊かな内容を湛えることにもなりました。

また、最後のページの社会性に富んだ提言が、時事問題についての関心を呼び起こし、もし読後感を述べる集いがあったら、さぞ活発なディスカッションが繰り広げられるだろうと期待させました。

そこで、皆さんにご提案したいと思います。時々、趣味や関心を同じくする人同士が集まって手頃なグループを作り、自分の追求した趣味上の作品を紹介し合うのはどうでしょうか。また、最後のページを読んだ感想、あるいは他の本を読んで考えた事などを語り合い、意見や、反論を交換するのはどうでしょうか。

前に、卒業後50周年記念の修学旅行という企画がありましたね。今度は、それぞれの趣味から生まれた手芸作品や、絵画、俳句などを展示し、また自分の関心事を追求して、それを発表するという高校時代の文化祭を、この誌上に再現してみるのも面白いのではないのでしょうか。

ご意見をお聞かせ下さい。

(伊藤 幸子記)

伊藤 幸子

江戸川区中葛西 5-7-2-1005

命^を愛し

富安風生という俳句の老大家がいました。1885年に生まれて1979年95歳で亡くなるまで、文字通り俳句一筋に生きた人でした。死の直前まで句作りを止めませんでしたから、他人のあるいは自分の老年を詠った作は相当な数に上りますが、その中に、加齢と言うことに関する不安あるいは愚痴のようなものは全くと言ってよいほど見られないのです。「一生の疲れのどっと籐椅子に」(81歳)というような句もありますが、これですらどちらかと言えばユーモラスに受け止められていて暗さは感じられません。

着ぶくれて老の眉目のなほ^{ひい}秀ず (56歳)

紅梅に立ちて美し人の老 (59歳)

枯芝に老後のごとくさす日かな (77歳)

幹によりて齢を愛す秋湖の前 (81歳)

私達も既に後期高齢者と呼ばれる年齢に達し、病気を始めとする心身の不如意、体力と各種機能の低下、心を蝕む不安といった加齢の基本的な重荷と憂鬱を日に日に感ぜずにはいられません。けれども、この現実をいたずらに不満の種とせず、むしろ老年のみが与え得る豊かさ、深さと受け止めたいと思う時、何十年もの間誠実に生の現実に対峙し、ゆるぎない風格と巧まざる華やぎに満ちた老年の境地を生み出した風生の例は、私達にとってこの上ない手本となってくれます。他人の老、自分自身の老を心からいとおしみ、そのたたずまいの一瞬を見事に捉えて見せる風生の作句は、加齢に関する発想転換のこつをそれとなく教えてくれるような気がします。そしてその老年ならではの

の心象風景の醍醐味を醸し出す酵母菌となるものは、誰しものが心の底に秘めている命への恋しさではないでしょうか。

春を惜しむ心と別に命^を愛し (風生 92歳)

伊藤 貴美子 (門脇)

四日市市前田町 2 5-1 7

高2の恩師の思い出と後日談

その1

高2の4月始め、担任の門脇先生と廊下で逢った時、先生が私に言われました「君は僕の姉さんか？」と。私は何のことか解らずポカンとしていましたが、私の旧姓は「門脇」、名前は姓名判断によって付けられたものらしく先生の姉君と同姓同名でした。

月日が過ぎて、私は中学校の教師になりました。卒業生を送り出してからのある午後私に電話があり、受話器を取ると「私はM校の門脇と言います。貴女の学級だったY君に新入生代表として入学式に挨拶してほしいので、宜しくお伝え下さい」と。とても懐かしかったです。

その2

やはり高2の新学期で、全校集合の前の休み時間の事です。まだ時間があると思って、親友のIさんと満開の十四川の堤防を「銀ブラでなく、堤ブラやな」と言いながら歩いていました。ふと運動場を見ると生徒が集まっています。慌てて校庭へ戻りました。すると岡田先生(通称チャボさん)が我々2人を見て、「遅い! こんなのがいるから学校の評判が悪くなる」と怒鳴られました。恥ずかしかったです。

やがて新採の中学校で、2度目の3年生を担当した私の学級に、岡田先生の次

男がいて驚きました。彼は、全く隙のない優等生でした。

稲垣 伍良

川崎市麻生区王禅寺東 3-19-5

聖路加の塔の見てきたこと

最近、友人の病気見舞いのために、築地の聖路加国際病院を訪ねることがありました。ホテルのような広いロビー、巨大な礼拝堂に驚かされました。当初は、余りにも病院らしくないと批判をうけたそうです。

地下鉄サリン事件のとき、この病院は、全ての外来診療を休み、ロビーや礼拝堂を臨時の病室に切り替えて、一時 650 名にのぼる中毒患者の治療にあたったと云われています。実は病院の建物は戦争や災害の際に役立つよう予め設計されていたのです。

東京大空襲のとき、この病院の一医師であった理事長の日野原重明さんには、逃げ場を失った多くの被災者を救うことができなかつたことへの強い思いがあつたから出来た稀有のことかも知れません。因みに私は疎開するまでは旧聖路加の塔の見える国民学校へ通う軍国少年でした。

一民間病院の持ち続けた「見通しの高さ」と、どんなときにも「ブレない行動力」が、何が一番大切かを思い起こさせてくれました。

現在の日野原さんは、新老人に向かつて「愛すること」「創めること」「耐えること」の三つを提唱されていますが簡単なようで難しいことです。このうち一つでも続けたいと念じながら、これからも穏やか日々を送ればと願うばかりです。

今井 いつ子

名古屋市昭和区丸屋町 5-34

歌舞伎 大好き

少し古い話で恐縮だが、2006年10月、中村鴈治郎あらため、四代目坂田藤十郎襲名披露の顔見せ公演を観に御園座へ行った。小さい時から母に連れられてお芝居を観ている私にとって「隅から隅までずいっと....」の『口上』は何が何でも見逃せない。

午後4時開演、『操り三番叟』の後、『口上』が始まった。この場だけは「美術・朝倉撰」とあり、得も言われぬ風情の背景が創られてあつた。

面白かつたのは、横に並んだ市川左団次の口上。「お兄さんのいつもながらのことでござりますが、ある日私が耳にしましたのは『16歳以上はおなごではない』とかで....」に満場が湧いた。日頃から、艶聞に事欠かない藤十郎らしいエピソードをさらりと匂わせた、左団次、こんな所にも歌舞伎の世界の華やぎを感じて面白かつた。

お兄さんと呼ばれた藤十郎は、扇雀と名乗っていた時から、『曾根崎心中』の初々しいお初の舞台が目に残っている。私よりは2歳ほど年上のはずなのに、その瑞々しさは感嘆するばかりであつた。他の演し物では、二人の息子と踊つた『枕獅子』や『梅雨小袖昔八丈』（髪結新三）が、さすが親子の呼吸ぴったりで楽しめた。

御園座のお土産は、昔から、品川巻きと知多名物の生せんべいと、我が家では決まっている。“良い子でお留守番”の夫のために買って帰つたのは言うまでもないことであつた。

谷奥 由紀子

大阪市住吉区我孫子 2-11-4

皇居

数年前に、縁あって皇居ボランテアに参加しました。そこは全く私達の世界とは違う空間、皇居専属の警察に守られ、騒音の無い緑いっぱい、金銭とは全く無関係の空間、そこで毎日いろんな楽しい作業を....

皇后さんのお召し物の絹を作る養蚕用桑畑の手入れ、徳川時代からの見事な盆栽が一杯並ぶお庭の清掃、天皇、皇后、皇太子様の執務室が並び、立派な植木のあるお庭の草引きと清掃。催しが多い神殿の後片付けや、その中にある楽士さんの養成学校の清掃、お正月等に私達に挨拶される、お立ち台周りの広いお庭の草引きは大変でした。紅葉等芽生えたばかりの小さな苗は掃き捨てるのが可哀想で持って帰り、未だに我が家のベランダで育っています。

1日だけ東宮御所に入りました。園遊会の催される広い丘の作業です。御所の中、こんもり茂った森の奥深く、かすかに屋根が見え、あの中に療養中の皇太子妃が.... と感無量でした。

いい空気の中で余念なく体を動かし、とてもいい体験ができました。

最後の日、天皇、皇后、紀宮さんお揃いで「ありがとう」と奉仕団身近までお出になられ、さすが何とも言えぬオーラに一同大感激、賛否両論の皇室だけど、いつまでも続けて頂きたいと思いました。

そして....、記念に頂いたのは、戦前父が勲章と一緒に貰ったのと同じ、”恩賜のたばこ”でした。

木村 達也

横浜市鶴見区東寺尾 5-5-43-203

トビリシ (続)

モスクワからトビリシへ向かう飛行機に乗った。これが戦闘爆撃機を改造したもので、驚いたことに窓が無い！代わりに上部の銃座を外したあとへ天窓が設けられている。この航路下には多くの軍事施設があり外国人には下を見ることが出来ないようこの天窓ブロックが割り当てられるのだそう。客室の前後は壁で仕切られ、明かりは上の一箇所だけ、何とも陰気なフライトであった。

機はコーカサス山脈を越え着陸態勢に入った。ところがここでも又々驚き。何と頭から突っ込むような急降下で空港に向かい始めたのである。元々戦闘爆撃機であり急降下攻撃はお手の物、パイロットも軍の操縦士だから驚く方が間違いであった。

町に入ってから道に迷ってしまった。標示はグルジア文字で、モスクワから同行の人も分からないと言う。大きく美しい公園があったので一休みした。すると人が寄ってきて「お前は何人か」と聞く。

「何人と思うか」と問い返すと「中国人か」と言う。「否」と言う。「ベトナム人か」と云う。「違う。ヤボンスキーだ！」と胸を張って答えると日本人を見たのは始めてだと大変驚いた。途端に公園にある沢山の木陰から出て来るは出て来るは驚くほどの人数が集まってきた。そして皆が日本人との記念写真を撮りたいと云う。喜んで写真に納まった。人情素朴なこの地の人が今も政治的圧迫下の日々を送っている。幸せを祈って已まない。



黒宮 康

四日市市西坂部町 3779-1

私とウォーキング

退職を機にウォーキングを始め、毎日1～1.5時間かけて、自宅から4 Km以内の範囲を歩いています。海蔵川の水鳥、西坂部城址の雑木林の緑のトンネル、三重台地の庭や花壇、尾平の竹林等、四季折々の環境に恵まれ、その日々の天候と気温、体調と余裕時間を勘案しながら快適なウォーキングを続けております。

また別に、三重県長寿社会大学 OB 会主催のウォーキングにも積極的に参加しております。1～2月を除く、3～12月の毎月の開催で、初年度は伊勢参宮ウォーク14回、巡見街道ウォーク4回、初瀬街道ウォーク6回、飛鳥跡ウォーク4回、和歌山街道ウォーク2回、三交バスハイク7回に参加しました。

このウォークの内容の一例をあげると伊勢参宮の場合は桑名七里の渡し～近鉄朝日駅9 Km、東海道の場合は日永の追分～加佐登駅9 Km、中山道の場合は鳥井峠～奈良井宿7 Km、初瀬街道の場合は長谷寺～室生寺7 Km、等であります。このOB会の平均寿命も80歳となり、亡くなる方、病気の方が増えて我々だけの貸切りバスでは行けなくなりました。現在参加者は15名前後となり、三重交通主催の三交バスハイクを利用しております。

ウォーキングは身体いっばいに太陽の光をうけ、自然に楽しみながら、歴史や伝説に想いをめぐらし、また名所旧跡を訪ねて自分なりに喜びを楽しんでおります。私にとってウォーキングは心身ともに健康を支えてくれる活力の源なのです。

後藤 隆三

川崎市多摩区三田 3-1-2-6-206

海と私（その3）

記憶に残るミステリアスな海難

その事件が発生したのは、昭和57年10月でした。誰もいない海水浴場の海岸に乗り揚げた漁船に人影はなく、操縦席に約100万円の現金が残されていました。

当時、私は北九州市門司区にある第七管区海上保安本部に勤務しておりました。

乗り揚げた漁船 K 丸は覚醒剤の密輸容疑でマークしていた船でした。K 丸は監視の隙をついて下関漁港を出て行方不明となり、必死で探していました。

数日後、北九州市と福岡市のほぼ中間にある T 崎海水浴場に漁船が乗り揚げているとの通報があり、急行しますと K 丸が海岸線にほぼ直角に突っ込んでいました。周囲の水深は1 mくらいで、船体はかなり壊れ、スクリューの羽も曲がっていました。

船に上がってみますと、エンジンのスイッチは ON、操縦レバーは前進に入ったままで、操縦席の足元に韓国のスーパーのビニール袋に入った日本のお札、98万円が入っていました。付近の海上、海底をくまなく搜索しましたが、船長 Y の行方はまったく手がかりありませんでした。

これが海難の概要です。K 丸はかなりな速力で海岸に突っ込んだのです。船長 Y がなぜ現金を残したままいなくなったのか、謎を残しました。



杉野 完次

三鷹市中原 2-4-34

夢を追いかけて

2007年4月、永年の夢が叶いスイス・ツエルマット・スキーが実現しました。自分で計画した12日間の旅でした。

友達夫妻が是非と言いますので、小生が添乗員になり、スキーなど大きい荷物は成田からツエルマット駅まで直送。スイス航空でチューリヒ着、空港駅から首都ベルンに。1泊して市内観光。翌日は列車で、モントルー経由でローザンヌに宿泊、チャップリンやオードリー・ヘップバーンが晩年過ごした街です。

翌朝、シオン城を観光して、列車を乗り継ぎやっと迷子にならずツエルマット駅(標高1800メートル)に到着、荷物を受け取り、現地山岳ガイドと落ち合い「めでたく」第一関門通過、マッターホルンの見える部屋にチェックイン、明日からのスキーの注意事項を聞いて就寝。

翌朝ホテル出発AM8:30分、6日間の標高3800メートルからの山岳スキーの始まりです。滞在中天候に恵まれ最高でしたが、富士山の頂上より高い所からガイドの後について一日中滑るのは並大抵ではありません。氷河あり、クレパスあり、パウダースノー、アイスバーンの急斜面、空気は薄いし、でも滞在中一度も転倒なしで頑張りました。

昼食に、パスポートを持ってイタリアのチエルビニアに滑り降りたり、それはそれは楽しいスキーでした。

60歳台なら毎年行けますが、74歳と73歳ではとても無理なので、この夢はこれで終了しました。これからは、次の「夢」の実現に向かって、遊び心、お洒落心、好奇心を忘れずに頑張ります。



南部 稔子(栗山)

四日市市浜田町2-8

教え子に伴われて

師走に入った土曜日、教え子のNさん夫妻に伴われて銀杏の里・祖父江(愛知県稲沢市)、そして開館25年の記念展が開かれている荻須高德美術館を訪れた。

一号線から大桑道路に入り西へと進む。多度山を左に、そして正面には澄んだ青空に鈴鹿連峰が美しく映える。揖斐川にかかる油島大橋、木曾長良の立田大橋を渡り愛知県愛西市立田に入る。ここは蓮根の産地、Nさんに「ここの蓮の花は小さいけれど、ぽっかり開いてそれは可愛いだよ」と手まねで教えてもらう。その柔らかい手から、ふと50年近く前、教え子達と「開いた開いた」と手遊びした頃が頭を過った。

木曾川に沿って進むといよいよ祖父江。銀杏の木が見え始めた時、ご主人が「あっ、みんな散っている」と残念そうに言われた。昨夜の風で一瞬にして散ったらしい。銀杏祭りの会場祐専寺の黄金の葉で埋めつくされた境内でおうすを頂く。大人の手の平程もある葉を二、三枚拾い、屋台で銀杏を買って祖父江を後にした。

荻須記念美術館では油彩画、タペスリ

一、リトグラフ等 190 点もの作品を目の当たりにし、パリを描き続けた画伯の業績の大きさに新たな感銘を受けた。

ご主人がぽつりと、「稲沢はいい所です」と言われた。私も全く同感、すべてに感謝しつつ帰路についた。

西脇 基夫

藤沢市湘南台 6-55-1

どこかおかしき日本

最近の政治や世相をみていると、日本のどこか、なにかがおかしいとは、思いませんか。

1979 年から 3 年間、私は家族を連れてアメリカに住んでいました。この間、外から日本を眺める機会があったわけですが、日本は、なんとおとなしくて自己主張をしない国なのだろうと歯がゆい思いをすることが、しばしばありました。

日本は戦争に負けて、すっかり自信をなくしてしまったのだろうか。学校でも社会でも、自分の意見を持っていないと、軽蔑され、無視され、埋没してゆく、それがアメリカ社会でした。

1980 年初頭、日本の経済は順調で、アメリカは日本の輸出攻勢に悲鳴をあげて、ジャパンバッシングが起きた時期でした。テレビニュースを見ているとスタジオに日本領事館の経済担当事務官が呼び出され、アメリカのエコノミストと対談させる場面が度々ありました。

ところが彼らは、日本をかばうこともなく、またアメリカ経済の弱点を指摘することもなく、ただひたすら「申し訳ない」と謝罪する一点張りでした。そこには日本で聞かされていた威勢のよい日本の姿はまったくありませんでした。

憤まんやるかたない気持ちのなかで、

アメリカ社会の治安の悪さと、性道德の墮落をみていて、いずれこの国は滅ぶに違いないと思いながら溜飲を下げていました。しかし残念なことに、その日本も 20 年後には、まったくアメリカ社会と似かよった国になってしまいました。

浜本 ひさみ (羽場)

小金井市貫井南町 1-11-7

ルーツを訪ねて

夫の両親の没後 20 年以上の時間が流れた。振り返ると様々のことがあり、何か生きて証のような物を残したくなる年齢になったのだろう。ルーツを辿り、形に残そうと思いついた。

両親の没後、夫の祖父母や両親の代につき合っていた人達からの手紙や訪問がきっかけとなった。A 家と B 家、A 家と親またその親、、、等、関係を辿るうち、家系図として残そうと思いついた。今は絶えてしまった、夫の祖母の実家の墓地がわかったのだ。金沢の K 寺が関係しているようであったので、その寺へ手紙を書き、我が家の全位牌持参で訪問した。そこには墓守も絶えた祖母の実家の墓が存在していて、寺の住職も大変喜び、美しい仏殿に私達を招き入れ、位牌を並べてお経をあげて下さった。

そして江戸時代からの記録のある寺の過去帳（そこに持参の位牌の主が載っていた！）や、保存されている H 家の位牌を見せて頂いた。そこには今まで知らなかった、祖母の両親や兄妹の存在等が記されていて、感動のひとときであった。

祖母の両親、その妹達の嫁ぎ先がわかり、それらの子孫があちこちに健在することがわかった。それらの由緒なるものが、金沢市立図書館の近世史料館に保存

されていて、家と家との関係がわかった。これらの家は皆加賀藩の氏族なので、由緒帳に残っているのである。これらを調べるにあたり、図書館に手紙を書いたり親戚の人に逢って、その人の持っている書類や写真や手紙等を見せてもらったり、大変な仕事ではあったが、楽しくもあった。史料館の方にも大変お世話になった。

結婚したてには全くわからなかった親戚の人と人との関係が明らかになるにつれ、家系図が出来ていく楽しみも増したのだった。

三枝樹 昭道

四日市市本町 2-7

セビアの理髪師

アルジェリアの国営炭化水素会社のアルズー製油所にいた時のことである。三か月のビザの有効期限が切れるので、隣国（地中海の対岸）であるスペインのマドリッドにあるアルジェリア大使館へ行って、有効期限の延長をして貰い、その帰り、マドリッドからスペイン南部の街セビアへ飛んだ。

セビアのホテルに着くと、テーブルの上に洒落たカードに、「セビアで床屋に行きませんか」と書いてある。あ、そうだ、ロッシーニの「セビアの理髪師」の軽快なメロディを思い出し、街の中の床屋を探し、ヘアカットを頼んだ。

ところが鋏がよく切れないのか、髪の毛があちこち引っ張られ、大分痛い目をさせられ、やっと終ってホテルへ帰ってきたら、襟口から入った細かい毛が背中中でチクチクして、こりゃ技術レベルが低いなと思った次第である。

翌日汽車にのり、スペインの南部、いわゆるアンダルシア地方を約200km東

に走り、夕方グラナダに到着、丘の上に立つ夕日に映えるアルハンブラ宮殿を訪ねたが、すでに門限の時間が過ぎ、中へ入れず、ホテルのフロントで相談したら、ジプシーの踊りでもみてきたらということ、アルハンブラ宮殿への丘の途中の横穴の住居に入り、真鍮製のタンバリンのようなものを叩いて哀愁の漂うバイオリンのメロディにのせて踊るジプシーダンスを見せてもらった。

藤田 弘幸

横浜市港南区港南台 4-5-13-103

開港150周年を迎えて

皆様方ご存知のように、今年が日本国に嘉永6年(1853)ペリーが浦賀に来航し開国を要求、日米修好通称条約調印後、安政6年(1859)6月2日横浜開港を実施してから150年を迎える節目の年になり、4月28日～9月27日まで5ヶ月間にわたって「開国・開港Y150」と銘うって「横浜開港150周年」記念イベントが各地で開催されます。

記念事業として、当時の横浜港発祥の地である「象の鼻地区」は「象の鼻パーク」として改修。その工事中に、開港から明治中期にかけて使用していた「港の貨物線の鉄軌道及び転車台」（貨物線と言っても当時船着場で使用していたのは、現在で言う手押しトロッコだが、線路幅は現在の新幹線と同じ）が発掘され、昨年10月に見学説明会が開催され、そのまま保存される事が決りましたが、結果を楽しみにしています。（一昨年、横浜で開催された同窓会の昼食会場レストランSCANDIAの隣）

日米交渉の舞台となった応接所：現開港資料館中庭（SCANDIAの前）に育つ玉

楠の木も関東大震災で焼失したが、その後新たな芽が出て生き証人として評価され、孫樹の養殖も行われています。色々な行事が企画されているようです。機会がありましたら、是非遊びに来て下さい。

前川 律 (矢野)

四日市市蒔田 3-5-17

楽しかった高校時代

「過去を振り返るな、先を見て進まぬ者に進歩なし」と若い頃にはよく云われたものです。でも近頃は過ぎし日を振り返って見るのもいいものだ、なかなか捨てがたいものだと感じて居ります。

十四川の桜の咲く頃は一層懐かしい高校時代を思い出させてくれます。

今は立派に成長し大木になった桜並木ですが50年前の伊勢湾台風では被害を受け酷く痛めつけられ、その姿は哀れなものでした。その桜の木は見事に甦り、毎年元気に沢山の美しい花を咲かせ、素晴らしいピンクの花のトンネルを作ってくれて居ります。また、花の終わりには風に乗って散る花吹雪も本当に素敵な風情のある景色です。

六十年前、十四川の土手を駆け足やマラソンをした体育の時間、授業をサボって遊んでいた坊主頭などなど、この桜の木の下でした。十四川の桜も私たちの様に若木でした。楽しかった高校時代、何の苦労も知らずに過ごした事、幸せだったなど、感激・感謝!!。

現実には、仕事と家事と子育て、と忙しい毎日を繰返し、一服する暇もなく、あっと言う間に終わってしまった現役時代です。これも健康であったからこそと、感激・感謝!!

とうとう後期高齢者の紅葉マークに至

りました。昔から「一月行きぬ、二月逃げ、三月去る」と云います。季節の移りかわりの早いこと。一月に頼まれたエッセイの原稿もとうとう締切日。都鳥が皆さんのところに届く頃は、十四川の桜も満開を過ぎていくかも知れませんね。

米本 晶子 (山本)

松阪市市場庄町480

加齢黄斑変性症に罹って

昭和35年義父の急逝により、主人の勤め先の大阪から思いもよらず田舎の実家に帰って来る事になりました。当時は祖母、母、弟、妹と我々家族と合わせて9名の大家族で、伊勢参宮街道沿いの古い家に住み、田舎の煩わしい諸々の仕切りに戸惑いながら、何時の間にか半世紀が過ぎました。平成17年に99歳で母も天寿を全うさせて頂き、いささか肩の荷を下ろしたところでしたのに、、、

今思えばその1年余前に主人が入院し、母も度々の入退院で私もきりきり舞いをしていた頃、夜の運転がしづらく「酉年だから鳥目かな」と言っていたあたりから兆候があったようです。仏事も一段落した頃、急に異状を感じ診察を受けた所、顔色を変えられ「黄斑変性のようだが、眼底の出血がひどいからしばらく様子を見よう」との事、始めて聞く病名に大変なショック! 瞳孔が開いたまま真っ白に見える道を恐る恐る運転して帰った時の事が思い出されます。

自分が患って初めて関心を持つてみると、いろいろのメディアで報道されていて、知識の無さを悔やみました。名古屋へ度々通い東京までも参りましたが、根治は無理で、薬や食事等で進行を食い止めるしか打つ手が無いとの結論でした。

その節には二七会のお友達に随分お世話になり、本当に感謝しております。温かい手を差し伸べお励まし頂いた事を力に余生を過ごして行きたいと思えます。主人は片目でも伊達政宗や双葉山のような偉い人もいるのだから、気を落とさずに頑張れと励ましてくれますが、私自身はむしろ森の石松に近いのではないかと思っております。

吉川 春海 (伊藤)

三重郡菰野町大羽根園青葉町 12-10

パラミタ・ミュージアム

海沿いの楠町から、緑溢れる大羽根園に移り住んで30年近く経ちました。初めの内は、鈴鹿おろしのうなる音や、一面の松林の松籟に中々寝付かれなかった程でしたが、その松林も次第に住宅地になり、朝夕眺める鈴鹿の山並みは変わらないものの、数年先には第2名神高速道路が麓を通過して亀山市まで開通する予定なので、自然の景観がまた一段と様変わりしてしまうのではと気がかりです。

さて、すでに足を運ばれた方もあると思いますが、この自然豊かな大羽根園の駅近く、湯の山街道沿いに2003年に開館した「パラミタ・ミュージアム」を紹介したいと思います。この美術館は、四日市の岡田屋呉服店(現在イオン(株))の先駆的女性事業家でいらした小島千鶴子さんが、世界的な版画家であると同時に、溢れる才能のままに巾広いジャンルで活躍した池田満寿夫が晩年に手がけた陶彫に心惹かれ、「般若心経シリーズ」を始めとする作品を多くの人に見て貰うため、私財を投じて建設されたものです。

四日市の地場産業である萬古焼の名品等多彩なコレクションの常設展示と魅力

溢れる企画展を両輪に、現在は(財)岡田文化財団により運営されています。随時著名人の講演会やミニコンサートも催され、地元鈴鹿に植生する山野草が四季を彩る庭園の散策も味わい深く、絵画を中心とした美術館とはひと味違いますが、周辺にお出かけの節はぜひお立寄り下さい。年末12/27～1/1を除き年中無休です。因に館名の「パラミタ」は梵語の「波羅密多」に由来しています。

渡邊 義明

芦屋市緑町 1-15-601

愚痴

社会人1年生になったときに酒を飲んで愚痴る先輩を見て、絶対に愚痴はこぼすまい誓ったものですが、編集者から何か書けと言われて禁を破って最近の世相を二つ三つ愚痴ってみたくまりました。

先ず、いつの世にもある「この頃の若者は」というフレーズについて。確かに未成年者による幼稚で凶悪な犯罪は多いようである。直接関わりがなかったせいか、世相全般を反映している程度にしか感じないが、電車に乗って若者の行動を見ていると、席の取り方、荷物の扱い、飲食、化粧、ケータイ、等等、彼らの次の世代はどうなるのでしょうか。

よく教育云々と言いますが、私は学校教育ではなく家庭教育の結末だと思えます。テレビ等のメディアの発達で、教育に係わるコミュニティーが時代を経るごとに広がり、家庭での教育の影響力が低下してはいるが、戦後二世代かけて見事に何でも人のせいにする子育てが実を結び、ナントカペアレンツまで出現するに至っております。

一方この国の政治を見ると、国のこと

より自分達のことしか考えない、当初は希望に燃えていたであろうキャリア官僚、その集団に振り回されている不勉強な政治家、その政治家に「景気を良くしてもらおう」と言う幻想を抱いている有権者等々。後期高齢者の私たちには、どうしようもないですね。

渡邊 千恵子（服部）

春日井市藤山台 5-4-8

75歳の節目

「鬼は外、福は内」の声が近くの森からかすかに聞こえてきます。ああ、今日は白山観音の「節分会」だったと気がつきました。久し振りに、痛い膝をかばいつつ隣家の前の階段を南へ36段、一段一段と降り、道路を横切ると白山神社の境内です。だらだら坂を登ると右手が神社で、左手の円福寺の北門をくぐると観音堂の境内です。焚き火がたかれ、大勢の参拝者に混じって、手作りの鬼のお面をかぶった可愛い幼稚園児も一緒に、袴つけた厄年の人々が回廊に立って撒く豆を受けていました。

50年前に始まった高蔵寺ニュータウン開発で、里山の森は消えてしまいましたが、1200年の歴史のある円福寺の2万平方メートルのお山の森はそのまま残り、今も「観音様の森」として近隣の住民に親しまれています。階段、坂道、参道を一巡りすれば朝の運動には絶好なのですが、この6ヶ月全くご無沙汰していました。昨年夏、不注意で左膝を痛め、思いがけず回復に時間がかかりました。

立春の朝から少しずつ散歩を始めて、今ようやく足の運びや屈伸が楽になってきました。春の訪れと共に筋肉の硬直も緩んでくる感じでほっとしています。

国民健康保険被保険者証は後期高齢者被保険者証に変わり、運転免許も高齢者講習付きで免許書き換えできました。紅葉マークも貼っています。

注意深く行動しないといけないなど実感しています。ゆっくり、ゆったりを心がけて、今しばらく自立して一人暮らしを続けたいと思います。

☆☆☆☆☆☆☆☆

平成21年4月1日、関東二七会の同期会を、桜の花満開の上野公園、東京国立博物館の奥庭にある応挙館という茶室で行ないました。

国立博物館の奥庭には、全国各地にあった名のある茶室5棟を移築して保管しています。そのうちの一つ、応挙館は寛保2年（1742）に名古屋市郊外の明眼寺の書院として建てられたものです。

18畳2間の大広間の内装すべてに円山応挙の墨絵（現在は複製）が描かれています。ここで、43名の同期性が集まり、松坂屋から取り寄せた美濃吉弁当と薄茶を点てて、喜寿を迎えることができる喜びを分かち合いました。

関東二七会は、これで閉会としますが、あとは、この都鳥に寄稿していただいて、お互いの健康を確かめあいたいと思います。傘寿、米寿のお祝いをする歳になりましたら、またこの上野の茶室に集まることができることを夢見ています。ちなみに、今回の茶会は、

点心 美濃吉弁当 太夫の舞

薄茶 稀令の昔 横浜浜田園

干菓子 上野広小路 岡埜栄泉本舗
でした。

（編集者 西脇基夫）

☆☆☆☆☆☆☆☆

皆さん人生は速いもの後期高齢者となり、もみじマークが似合うようになってきた。平均寿命は延び、男性は70歳後半、女性は90歳近くまでになった。めでたく80年代である。昭和10年代、我々の学童時代を振り返ってみよう。当時は人生50年であった。これを現代の年齢に当てはめてみると、今の年齢に0.7を掛け算すればその時の歳となる。例えば我々は70代であるから49歳となり、ちょうど昔の寿命である。

では、動物は最長何年まで生きることができるか。雌の最初の排卵年齢に9を掛けると最長生存年数が予測できる。身近な所で犬は約1年で排卵がくるから自然環境では9年まで生きることが可能となるが、ペットは例外である。蟬はどうか、蛹から成虫となり1日から2日目に鳴き始め10日から2週間で子孫を遺して一生を終える。人間は、初経の平均が12歳として最長108歳まで生きることができる。皆さん、是非100歳までがんばって下さい。

平均寿命に戻ろう。女性は男性に比べて長寿である。その理由は、人生の大仕事である出産のため内蔵が丈夫である。次に授乳のため栄養源となる皮下脂肪がつく体型になっており、反面内蔵脂肪はつきにくいいため、太めでも心配無用で生き延びるが、膝に負担がかかるため程々がよい。男性のメタボリック症は、皮下にも内臓にも脂肪が沈着しその結果、動脈硬化となり循環器疾患が主体となる高血圧、脳卒中（脳梗塞・脳出血）、腎不全と糖尿病後遺症と命取りとなっていく。第3には、女性は老齢になっても家事、特に食事に従事することが多く栄養価でも安定している。男性は仕事量が減り、趣味は縮小し粗大塵化して短命の路を歩く。これを乗り越えるには青魚を食べ、休肝日をつくり運動を続けることである。骨粗鬆症の予防も運動と適度な日光浴が効果を上げる。ここで一句

「カロリーを説く医者も太鼓腹」 お粗末。

次に待っている人生は、認知症である。高血圧、動脈硬化が原因となる脳卒中の後遺症や脳血管の循環不全による脳血管性痴呆症がある。これの男性に多く見られる特徴は、四肢の運動障害、言語障害、易怒気質と涙もろい感情失禁をみるが、病気に対する自覚はある程度保たれ、人格変化よりも知能低下が先行するが多い。もう一つは加齢に伴って大脳の萎縮または変性によるアルツハイマー型痴呆である。これは自覚に乏しくいつの間にか人格変化が強く現れるやっかいな痴呆で、長生きする女性が占める。いずれの認知症も進行すれば自立生活は不可能となり介護の必要がある。

痴呆は、高次大脳を有する人間だけに、死の恐怖を取り払ってくれる神からの賜物として有難く受けねばならない。なんとなれば治す薬がないからである。大脳は左右の半球に2分され、右利きの人の左大脳は言語の発語理解、辞典、計算等を司り、右大脳はメロディ、認知記憶、意欲、感動を司る働きをしている。わかり易く言えば、左脳は勉強の脳であり、右脳は心の脳となる。左利きの人は左右逆となる。

そこで我々の年齢では、左脳の活動はもう無理だが、心の右脳は今も働き続けている。そこで必ずやって来る治療のみえない認知症に備えて、介護者に安心して援助してもらえ、かわいい爺ちゃん婆ちゃんになろう。今からでも遅くないから、右脳の助けを受けて、嫌いなものが見えない眼、雑音が聴こえない耳を常にもって過去を忘れ、明日への老後の生きがいに希望を持ち続けられれば、きっと念願が叶うと信じている。

終わりに、「踏まれても笑顔で咲くタンポポの花」。

投稿のお願い

皆さんからの自由な投稿を歓迎します。日ごろの生活を中心に、思い出、将来の計画、なんでも結構です。本文の数字で600字を超えない範囲で投稿してください。仲間同士で投稿を促し、執筆者が増え、読者も増え、だんだん輪が広がっていくことを期待します。遠くへ出かけることが億劫な人でも、これだといつでも参加できますから気楽に参加してください。

発行は、春秋の年に回、5月と11月に発行します。締め切りはそれぞれ4月末日と10月末日としますが、常時受け付けていますから、いつでも気軽に下記にお送りください。

(1) 伊藤幸子

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西 5-2-7-1005

e-mail : itohs@tbd.t-com.ne.jp

(2) 西脇基夫

〒252-0804 藤沢市湘南台 6-55-1

e-mail : nishiwaki@ruby.plala.or.jp

原稿は、手書きでも結構ですが、電子メールですと編集の手間がかからなくて助かります。フォントの種類、大きさは問いません。自由なスタイルでお書きください。

都鳥は皆さんからの基金で支えられています。この小冊子は、編集80円、郵送費用120円がかかっております。この費用の一部に、一口500円以上のご支援を頂けると嬉しく存じます。お志のある方は下記口座にお願いします。

ゆうちょ銀行 記号10270 番号40101091 西脇基夫

この冊子「都鳥」は、三重県立四日市
高等学校、昭和27年（1952）卒
業生で作るエッセイ集です。平成19
年（卒業後55年）に同好者が集まり
創刊しました。